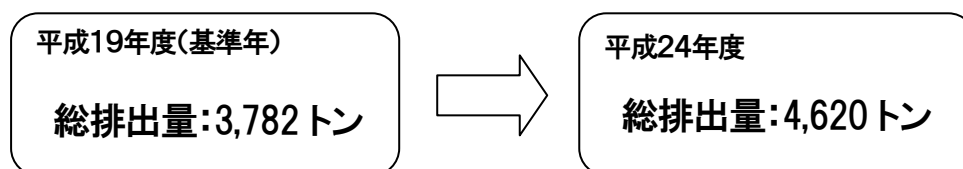


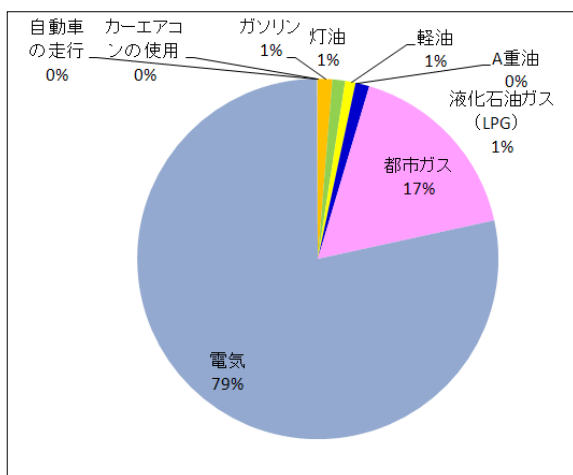
平成24年度温室効果ガス排出量まとめ

1. 温室効果ガス排出量について

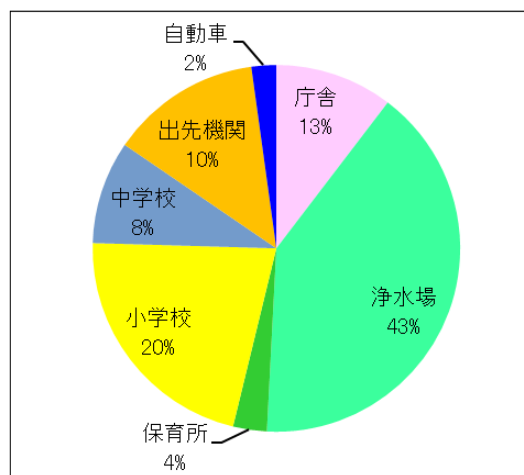


※平成19年度比 22.2%増

発生源別二酸化炭素排出割合



施設別二酸化炭素排出割合



2. 森林整備によるCO₂吸収量

森林整備面積：11.4 ha

CO₂吸収量：179.9 t

H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24
 (525.87t+255.96t+107.12t+45.7t+59.2t+157.0t+108.2t÷7年=179.9t)

H19年度比
17.4%増加

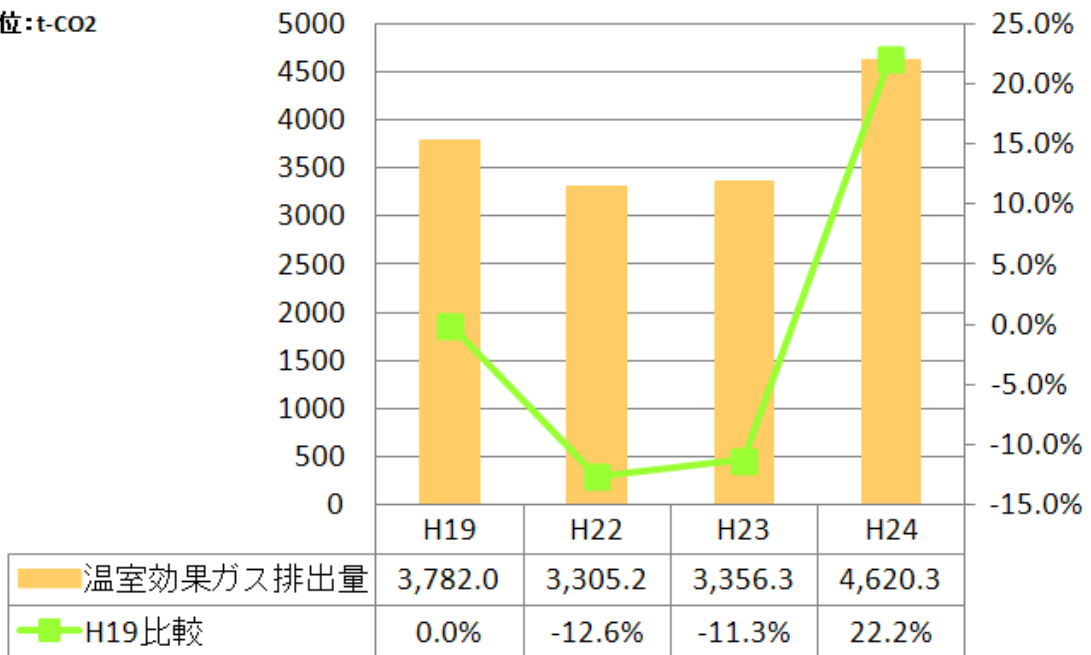
全体(総排出量:4,620t-CO₂吸収量:180t)=4,440t



《推移》

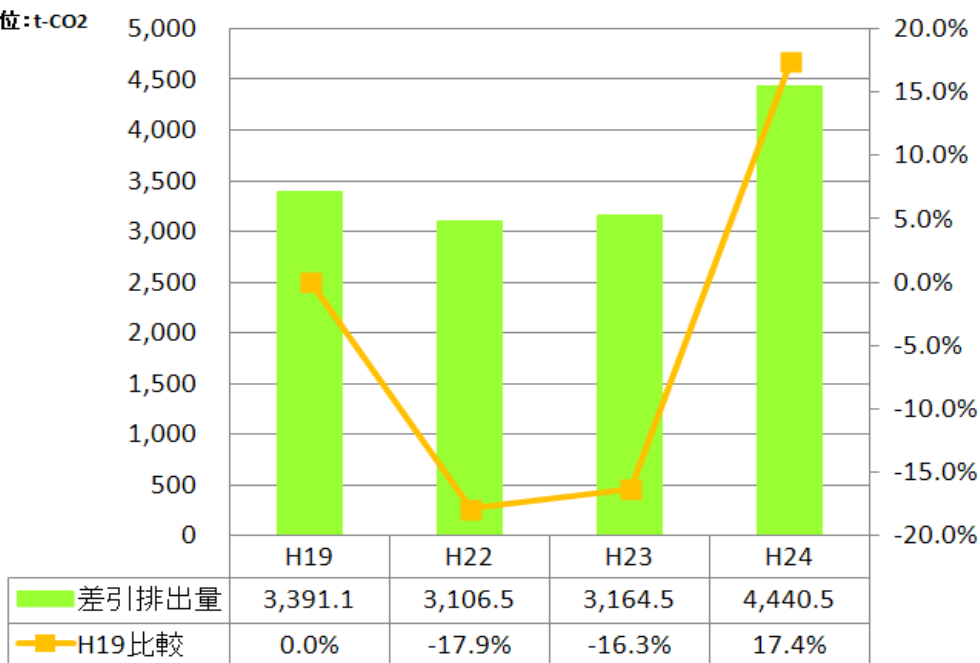
①【温室効果ガス排出量推移】

単位:t-CO2



②【温室効果ガス排出量（森林吸収量含む）推移】

単位:t-CO2



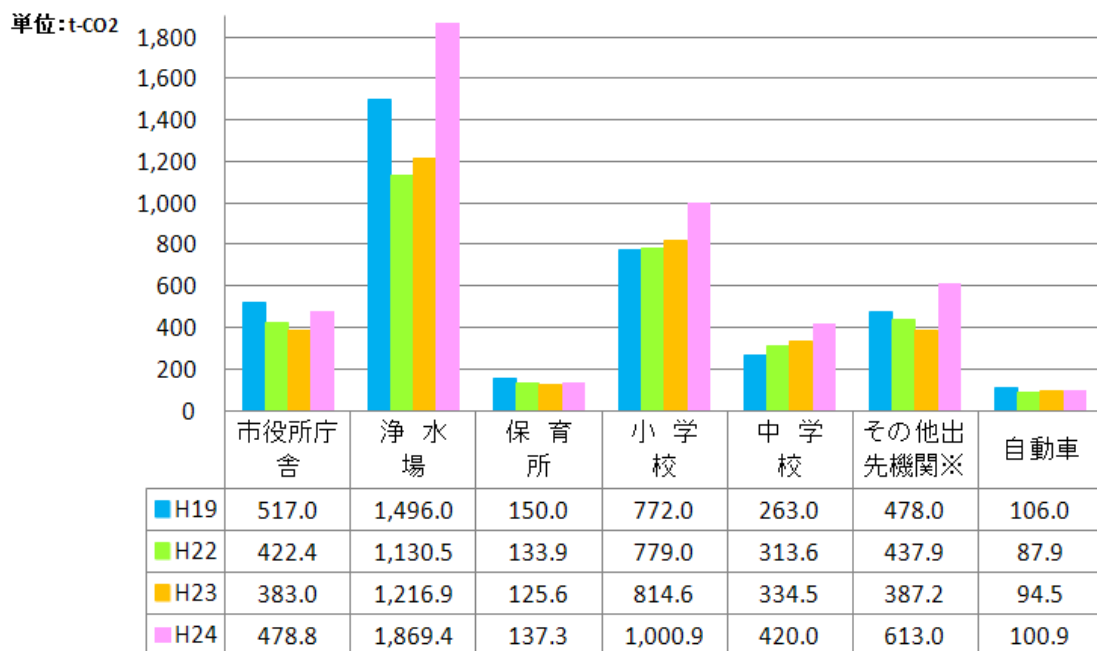
①のグラフは、基準年である平成19年度と計画の対象年度である平成22年度～24年度を比較したグラフです。②のグラフは、①の排出量から森林吸収量を差し引いたグラフです。

平成24年度は基準年と比べて22.2%の増加、森林吸収量を含めても17.4%の増加となっています。増加の原因の主な理由としては3点あり、第一に水の汲み上げを行う北ポンプ場が建替え工事中で使用できず、その不足分を北ポンプ場よりも多く電気を使用する長法寺ポンプ場で補っているために電気使用量が増加したこと、第二に節電対策の一環としてお出かけスポットになっていた中央公民館や図書館等の電気・ガス等の燃料使用量が、節電期間にクーラー等を前年度よりも使用したことにより増加したことが挙げられます。

そして、第三に最大の要因として挙げられるのは、平成24年度温室効果ガス排出量を算定する際に使用する電気の排出係数の値が前年度よりも約1.5倍に上昇したことです。これは、平成23年に起こった福島第一原子力発電所の事故の影響により各地の原子力発電所が停止し、発電の際により温室効果ガスを排出する火力発電所によって電気が作られたためです。

これらの理由によって、平成24年度の温室効果ガス総排出量は基準年度よりも600t以上増加する結果となりました。

③【施設別の温室効果ガス排出量推移】



※中央公民館、図書館、北開田会館、北開田児童館、老人福祉センター、保健センター

③のグラフは、基準年である平成19年度と計画の対象年度である平成22年度～24年度の施設別の温室効果ガス排出量の推移を表したグラフです。

上記に挙げた理由により、平成24年度の温室効果ガス排出量は全施設において増加しています。ただし、保育所については平成23年度末で今里保育所が廃所となったため、微増となっています。